

# ポピュリズムの時代なのか —岐路に立つ現代デモクラシー—

千葉大学法政経学部教授  
水島 治郎

- \* オランダの先進性に注目
- \* 西欧先進国で多発するポピュリズム現象
- \* 対立軸の歴史的な大変化
- \* 各国の選挙にみるポピュリズム的な展開
- \* 起点となった冷戦の終結
- \* 無組織層が増した背景
- \* ポピュリズムに見る左派と右派
- \* 日本で有効な「中」のポピュリズム
- \* 西欧ではソフト化で支持拡大も
- \* オランダ研究は石橋湛山にも通じる



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は本年度の石橋湛山賞の受賞者の記念講演というところで、千葉大学の水島先生においていただきました。東京大学のご出身で、大学院在学中にオランダのライデン大学に留学され、その後、博士課程を修了されて、甲南大学を経て、現在千葉大学で教鞭をとっておられます。オランダというと、研究テーマとしては小国なので、どうなのかなというふうに思われる方が多いかもしれませんが、この間の受賞のご挨拶のときも、小国ということと石橋湛山であると。これはさつきもお話を伺いましたけれども、大国を目指すのではなくて、小国として世界でちゃんと存在感を示していくという石橋湛山の思想というものは、実は石橋湛山の研究

者でなくても非常によく知られていることですのでございます。

受賞記念講演というと人が少なかつたりするんですけども、今日はたくさんいらっしゃっておりますが、ポピュリズムというのは時宜にかなったテーマでございます。世界中でポピュリズムの奔流が起きている。しかし、ポピュリズムの本質とか、現代的な意味とかはあまり十分認識をせずにこの言葉が使われているという気がいたします。ポピュリズムがヨーロッパでは問題になっているわけですが、世界的な状況も踏まえてご本をお書きになりました。ですから、今日はそういった今日的なテーマを十分に解説をし、将来へどういふふうな展望を描きたいかということも含めてお話をいただけ